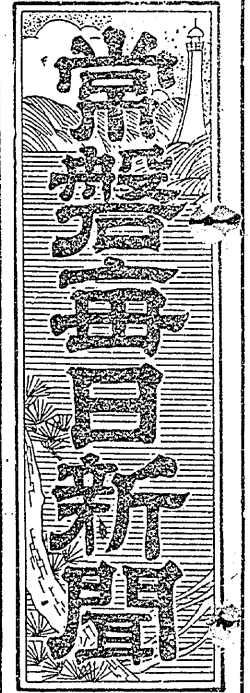


刊夕日一十月二十



定額一圓 一月五拾銭 郵費五拾銭  
 廣告料五拾銭 電話一円五拾銭  
 日曜祭日の翌日休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日新聞印刷株式会社

一〇〇〇哩を  
 驅けて

清交會 登良 夫生

(七) 海拔一、二二三尺の地点  
 伊東下田に比しはるか冷気  
 の強く朝露は我々の着衣を  
 正す。八時宿を立つ。  
 路を昨日に返して盧の湖  
 に至る。

覺勝五郎初花共に仇討つ  
 身も紅葉の樹下手綱を肩に  
 秋の美景に魅せられた事であらう。

安元二年の神無月東澤山の狩倉に父を討たれてより十八年の天津風五郎十郎の辛苦も虎御前の情に助けられ不具戴天の父の仇工藤祐経を富士の裾野に討つて日本三大仇討の一つに折られた會我五郎十郎虎御前の墓に詣す。

同じ三大仇討の赤穂義士の墓に比して余りにも貧弱なる路傍の一墓に情涙を催す。右路右道に多田満仲の墓二十五菩薩精進ヶ池六地藏等あり。  
 昨夕に比し湖水は鏡を作つて四圍の山趣と相俣つて風光明媚の湖横断のモータボートは湖面に波紋を描いて宛然白鳥の浮くに似たり箱根の關所跡も一標木にかけ昔を偲ぶすがなく海拔

三千尺の強羅公園に向ふ箱根の名園強羅に三十分を費しこゝを送ればまた山來り山去り鋸の如く連山起伏するを迂へて長尾峠にさしかゝる手弱女の如き曲線美を伊豆に求むるならばこゝに體軀頑健の山岳美を見出すであらう。

露晴るゝを待つ外人の一群に逢ふ七八町もあるかと覺しき隧道を通して白雪の富士高く空に映り伊豆の連山霞にとけてパノラマの如く展開す。  
 黄雲白雲薄墨の雲飛び立ち奥天を摩して悠々聳え立つ富士は今名匠の筆に彩色の真中と見えたり。長尾峠の麓より廿町にして御殿場口を通り富士五湖の一たる山中湖に至る。落葉松の林

火鉢の残り火は素焼の植木鉢をふせると消える  
 立を通して満々たる湖を見る冬季ともなれば一大スケール場を現す、山中湖は左に富士を控へて氷上手を組まはゞ軟風面を拭ふて青葉の片々頭首に舞ふ冬の亂舞場は今やその準備とも見えずり更らに道を進めば競馬場等あり傘のやうな樹木が點綴せられ道は直線を描く車

紅葉の名所高尾山に出づ見んとする者見ざると云ふ者淺川御陵參拜時刻にいとまれ高尾を割愛し車を一回

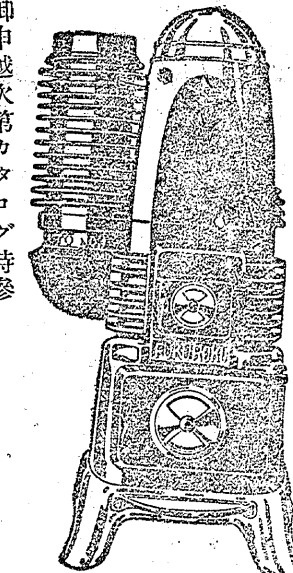
轉排氣瓦斯を吐き捨て平々坦々たるアスファルト補道を蹴る。  
 大正天皇の茲にお在しまし給ふ。淺川御陵の玉砂利を踏むその音にさへおのづと頭の垂るゝをおぼゆ道の左右に青松綠葉翠嵐を含み芝生は酒然として青甞を布く如し池の汀に立てば潑刺なる鯉魚水をたたく。

【朝】 すまし汁——八杯と  
 うふ  
 【晝】 むし肴——ひらめ菜  
 花むし  
 【晚】 にじめ——半べん付  
 やき 甘露甘露煮

リットにて新橋が架けられ橋底數十丈をのぞけば奇巖重り合ひ頭痛を覺ゆ。  
 更らに進んで甲洲の箱根と言はれたる大ダルミの轡こと小佛峠に突き當る。  
 人馬も道に墮れ峻峻に泣きしは昔のこと今は誇る完全なる路面に平のクツシヨンは宜し。たゞ高低曲折に平のエンヂンはセコンドとなれば爆音高く山の先端に出で間を指してエンヂンブレーキと換ゆれば波間に落つる帆船にも似て心地よく車中變轉極りなき山形手にとる如し。

紅葉の名所高尾山に出づ見んとする者見ざると云ふ者淺川御陵參拜時刻にいとまれ高尾を割愛し車を一回

不護婦急派  
 の求めに應じます  
 平町南町  
 平看護婦會  
 電話三〇七番

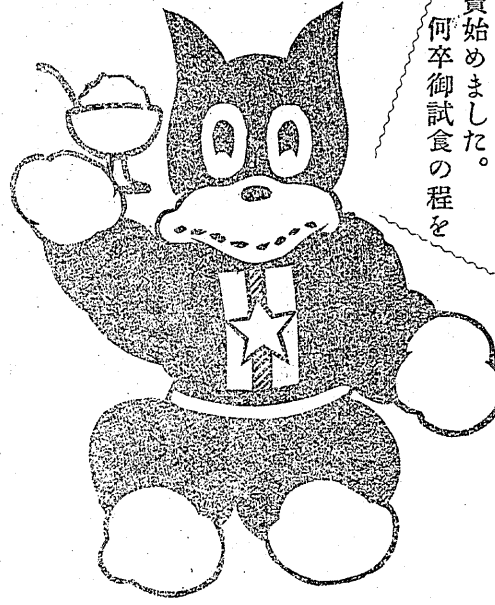


完全燃焼の爲め  
 煙筒掃除の要無き  
 本日一の  
 フクロク、ストロブ

發賣元  
 平町五丁目  
 釜屋商店  
 電話九番  
 阿部石炭商店  
 電話三七番

日本に唯一の魂這入った  
 東京工場  
 聯盟の自轉車  
 指定販賣所  
 フタバ商會  
 平新川町・橋際

冬向御料理  
 毎度有難ふ御座います  
 今度牛ナベ・豚ナベ  
 鳥ナベ・海老天ぶら  
 天井類  
 賣始めました。  
 何卒御試食の程を



魚清食堂部  
 旭硝子株式會社製品  
 赤菱印  
 板ガラス  
 硝子 壺  
 硝子 食器  
 其他 各種  
 松崎硝子製作所  
 平町新川町(電話一四二番)  
 〇支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

二井タクシー  
 平町二丁目 電話六八五番

# 警中の外套

月曜 是非

小槍山警中校長が同校に赴任して以來、怪刀亂魔を断つての意気込みを以つて、校内の革新に努力せらるゝその熱誠さに對しては吾人の常に敬服する處である、然も同氏が生徒の精神陶冶に主力を傾注し、警中魂の振興に日夜苦慮しつゝあるの点は現在迄の革清の實蹟が是れを立證して餘りあるものである。

今回の五年生に對する外套使用の禁止も、又此處から出發せるものなるは、吾人の容易に諒解し得る處である、然れ共、斯かる端的高壓命令が、今や寒氣漸く猛烈ならんとする季節に際し、然も突如として持ち出された事を意外とするものである、言を代ふれば泥棒に襲はれて始めて繩の用意に取りかゝれるが如き感なくんばあらずとするものである。

恐らく各生徒は、既に外套を整へて冬越しの用意を終へた折柄であらう。成長盛りの彼等は封せられた外套を永久に使用するの機會を失つた、此の物質的負擔の損害はさしたる事なしとするも、若し斯かる企てありとすれば、夫等の用意の構せられる以前に於いて豫告するの親切氣はあつてもよささうに思はれる。

また配屬將校大井川少佐の言に依れば、此事が剛健な精神を涵養する一方便として斷行された由であるが外套一枚を着たか脱いたかそんな生優しい事に依つて剛健な氣象が、失つたり養はれたりするものであれば精神陶冶は餘りにも簡單明瞭過ぎるものではないか、寧ろ父兄の立場から云へば嚴寒時に外套を着用しても失はぬ様なガツツリした剛健な氣象を養成して載き度いと處望するであらう、また外套を廢する事が薄着の習慣に馴れしむるのであるとすれば、制服の下着シャツは何枚といふ事迄も制限を加へねば徹底しない事になる要するに厚着も薄着も個々別々の健康状態に依つて區別せらるべきであり勤學の生徒が風邪發熱を冒して登校するが如きは、屢々見受けられる處であるから、此の生徒に迄も薄着を迫るは慘酷に失する懼れがないか。

「寒さにも壓倒されぬ精神」は大いによしされど其の精神に順應して手輕に寒さを撃退するの欲求に依つて生産された外套を着用して悪いといふ理屈は肯定され難いのである、欲求の起る處に發見あり發明を生じ従つて文化の恩恵に浴し、生徒の向上進歩を遂げるのである、防寒具として外套を用うるは文化生活を營ひ近代人の得權とも考へる事が決して不自然ではない。

今外套のある時代に生れた生徒達を何が故に外套の無い時代に逆戻りさせて、教育を施さねばならぬのであらうか、苟も教育の事たるや時代の進運と同一の呼吸を共にすべきである『外套を着ても大丈夫な人間』を養成して載き度いといふは、實に此處に在る、學校當局の再考を望んで止まな

然れ共、今回の禁止命令

たるや、生徒を玉成せん熱意の發露である事は吾人に毛頭異議のない處、従つて生徒達は、徒らに學校當局の處置に反抗的態度を示す事があつてはならない、寧ろ郷等を大成せしむる上には是非ともあれ此處迄腐心焦慮する師の恩の有難さを感佩して學業の途をいそしむべきであらう事を附言する。

建設工事完成を告げ本日茲に竣工式を擧ぐるに當り來賓各位の貴臨を辱うしたるは洵に光榮とする所なり先帝長くも勅語を賜へ國防の完備は汝在郷軍人に待つもの洵に多し汝等戮力協心陸海一致して益々軍人精神を鍛鍊し軍人能力を増進せよと聖旨宏遠恐懼感激の至りに堪へず願ふに郷軍素質の強弱は直ちに一國の浮沈に關す吾等射撃場建設を企立つるや久し只適當の地なく今日に及べり然れ共時局愈々重大にして國防の一事一日の遲延を許さざるに至る即ち地を此の地に卜し計畫を立て寄附金を仰ぎ工費六百餘圓を投じて漸く其の工を竣へ本日之式典を擧げるに至る此の工事建設に就き駒場中尉木村幸雄兩氏並に係員諸氏の献身的努力に待つもの亦神谷村々民各位其他多數諸賢の此の舉に賛し多大の援助を與られたるを以て工事業の遂行を見たる所以にして茲に滿腔の誠意を捧げて

感謝の意を表す今や東洋の風雲益々急迫を告げ國防上極めて重大なる危機に立つ吾等聖旨を奉載して奉公の至誠を捧げるは將に此の秋にありと信するを以て益々軍人精神を鍛鍊して武技を磨き身命を賭して非常準備の決意を固め職責を全ふせん事を誓ふ希くは郡民廣く此の射撃場に依つて武技を演練し以て國民國防の實を擧げられん事を切望す聊か庶辭を陳べて式辭とす

## 射撃場落成の喜び

### 武技を競ふ郷軍の精銳

#### 昨日神谷村に參集して

既報在郷軍人石城聯合分會の東部射撃場落成竣工式並に射撃大會は昨日午前十時より

村分會長木村幸雄氏の工事報告山崎聯合分會長の式辭來賓福島聯隊區司令官代理塚田大尉の祝辭等あり工事功勞者の表彰に移り帝國在郷軍人の表章に移り帝國在郷軍人會長陸軍大將鈴木莊六氏より平商配屬將校駒場中尉神谷分會長木村幸雄の兩氏及び山崎分會長より神谷分會員宇佐美彌、片寄實、木村

信良の諸氏に對し感謝狀並びに記念品を贈呈し午後一時より山崎聯合分會長の試射を始めとし來賓有志の試射終つて直ちに射撃大會に移り午後三時盛會裡に閉會したが山崎聯合分會長の式辭射撃大會の入賞者は左の如くである

△式辭 石城聯合分會東部射撃場

△射撃入賞 1 夏井村鈴木助重郎、2 福島炭礦齋藤平八、3 泉村佐藤源一郎、4 平窪村上妻久翁、5 泉村小野葉治、6 大浦村小林三郎、7 警崎村高木寛良、8 神谷村佐藤佐市郎、9 好間村井上秀十、01 平町中野文吉



## 巷の話題

『いとと〜、どうだネ氣保養に一ツ新湯へでも遠出としやれようか』ぼんとまああたし嬉しいは〜で、若松市旅籠町野崎米店

々員古川源藏は同市料亭清水家の酌婦おスヨに首つたつけになり手に手をとつて雲がくれ、目的の新湯に來たは來たがどうも女が變なのでよく注意してゐると少々足りないことが判り、すつかり嫌な氣ざして萬代橋附近で女をまいたまゝたつた一人下ドロン、お、私や知らな〜

ザムネン談二件 テ〜有難えゾ、月給五十圓の小使さんなんて青物渡世なんか馬鹿くさいや〜と愛知縣濱名郡曳馬村の鈴木徳平ドン詐欺漢のあまい口車に乗つたばかりになけなしの二十圓までまんまと持ち逃げされ〜ザムネンと言つたがもうお

そい濱松市田町金谷洋服店では日本樂器會社の職工といふので安心して注文のズボンを小僧に持たせてやつたところ、こゝは袋小路だから一寸待つてくれろとズボンを受取つたまゝ袋小路をズボンと籠抜け、テ〜有難えヅツ

田義雄(ニ)は浴客から預かつた大金在中の財布の中から廿圓札を抜き取り知らぬ顔で番臺も當てにならぬいづ、秋田縣大館町料亭辦天庵のペンテン藝妓萬龍は同町花の湯に行き大切な大切なダイヤの指輪を番臺に預けウルクてる中に指輪が無くなつてしまひ、あの人に濟まねし〜

△四軒町二十松浦一八氏 東京市麻布區本村町一六吉田高生二六 △紺屋町五六當時東京市蒲田區新宿七七一水竹金一郎氏三一山梨縣西山梨郡甲運村字櫻井相澤村倉二五

## 平町人事

### 回出生

△鍛冶町二五當時東京市淺草區千束町一〇一五六藤田貞三郎氏二男誠治

### 回婚 姻

△四軒町二十松浦一八氏 東京市麻布區本村町一六吉田高生二六 △紺屋町五六當時東京市蒲田區新宿七七一水竹金一郎氏三一山梨縣西山梨郡甲運村字櫻井相澤村倉二五

# 師團長の宮

## 御來平内報

### 平町に御一泊

#### 郡下各要所を御巡視

第二師團長東久通宮殿下におかせられては本縣濱通り初御巡視の途次來る廿一日御來平遊ばされ平町に御宿泊の上郡下各要所を御巡視遊ばさる旨の内報が平署に入つたので横山平署長は直ちに手配を開始したが當日は畑山本縣知事初め其他高官連も來平する筈なので小林平土木監督所長と打合せ御通過路線の下檢分を今明日中に行ふ事になつたが平町は目下の國道側溝工事を急速に進行せしめる模様である

## 村の爲めを

### 圖つての此の罪

#### 各辯護士無罪論を主張 玉川村長の事件

既報玉川村長駒木根忠三氏(四九)に對する公文書偽造行使詐欺事件の續行公判は去る九日午後一時より平支部に於いて中島才判長係り關口香西兩判事陪席三堀檢事立會門傳武田、松野尾各辯護士列席の下に開廷され辯護士は擧つて「村の爲めを圖つたものにて私腹を肥せるに非らず法律に犯觸せるは手續上の錯誤に過ぎぬ」として無罪論を主張し三時半閉廷したが判決言渡し公判は來る十六日午前十時である

## 講習報告

### 平第二校で

過般東京市に於て文務省主催の下に開催された思想、家事、算術、作業教育の各講習に出席した平第二小學校玉手訓導外三名は本日午後二時より講堂に於て左の如く報告があつた  
思想問題、玉手訓導、家事阿部訓導、算術、佐藤訓導、作業教育海野訓導  
平署古河剣道 既報平警察署對好間古河炭礦の對抗劍道試合は昨日午前

## 兩縣社境内を清掃

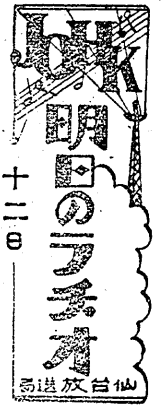
### 女生徒等甲斐々しく

平第二小學校高等科一年生百五十餘名は本日午前七時より金澤首席訓導及び海野松本兩訓導監督の下に縣社子歛倉神社、同八幡神社境内の清掃奉仕した

## 劍道部發會

### 當日の順序

既報明日舉行する筈であつた平第一小學校の劍道部發會式は都合に依り來る十三日に延期されたが當日のプログラムは左の如く終つて懇話會を催すと  
開會の辭、國歌合唱、學校長の挨拶、來賓祝辭、演式(大日本帝國劍道型、兒童の基本動作、模範試合)校歌合唱、閉會



今夜は北東の風雨  
明日は北東の風曇り雨模様

今晚の部  
後六〇〇 子供の時間  
兒童劇「甲冑堂物語」仙臺市連坊小路小學校兒童指揮安部駿雄  
後六二五 英語講座(五)の三 鈴木富太郎  
後七三〇 講演「農業動産と金儲」農林省金融課長周東英雄  
後八〇〇 ピアノ獨奏  
は十對九で平署チームを破つた

## 花合賭博

### 車座檢査さる

内郷村字級居住 四家鶴松(五)方で去る九日午後一時頃同人初め同字酒井喜三郎(三三)平町五丁目佐々木恒吉(三三)の三名が車座となつて

## 選手招待

### 平第一校で

平第一小學校では來る十六日午後二時より同校講堂に於て本年度各運動部に功勞あつた選手百餘名を招き慰勞會を催すと

## 西洋剃刀逆手に

### 動脈を切断自殺

好間村大字川中子字五神三三農誠一弟猪狩三郎(三三)は本十一日午前三時頃自宅に於いて西洋剃刀を以つて動脈を切り自殺したが原因は十三年來の不洽の病を悲愴した結果であると  
兩校長の叙位 豊間村小學校長大平喜一郎及び

前九・一〇 料理献立  
前九・二〇 小學校授賞  
況(仙臺市宮城縣師範學校附屬小學校第三學年男生徒教室より中繼)尋常小學讀本卷六第十四課冬の夜授業狀況  
前一〇・三〇 家庭講座「恵まれない水上生活者に就いて」鈴木英男  
後〇・〇五 映畫物語「幻の修羅城」長門武郎  
後二〇・〇〇 家庭講座「筆のお稽古」(七)村田松泉  
後五〇・〇〇 東北民俗行事の臘月正月 刈田仁  
後五三・三五 受驗講座「英濱町某」  
給料面談(平町某)  
配達夫 二十二才 商卒  
給料面談(平町某)  
給仕 十四才 中學一修  
給料面談(平町某)  
事務員 二十九才 中卒程度 給料面談(久之濱町某)  
料人 二十四才 尋卒  
給料面談(湯本町某)

感じの良し! 客に親切な...  
藥種賣藥、工業藥品  
衛生材料、各種染料  
化粧品、其他  
阿部藥舖  
平・田町(松月堂向)

## 耳鼻咽喉科専門

氣管食道科  
平南町(電話一七〇番)  
大和田醫院



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演 山本英春畫

第百十一回 徳川家に崇る村正

酒井忠次の深慮

忠次悉く王章をば讀終りまして

忠「誠に恐れ入りました。さういふ、女々しき事と君に於ては仰かございましたが、之を小事と拾置きますれば御當家のみならず、又拙者の主人家康の危急存亡にも係ります。一大事愚見を以て取計らう事も兼ねますれば、主人家康とも相談の上、事の起らぬ中取鎮めするやう仕ります。何卒御賢慮安く思召して下さるやうに」

御返答を致して酒井忠次に於ては直ぐに岡崎へも立寄らす遠州濱松へ引返して此段を家康公に言上いたしました。尤も秘密を要する事ゆゑ内々御相談いたすと家康公御嘆息の上家「不惑には似たれども伴三郎信康はどうも捨て終はなければならん、我が胸中を推察いたせ」

忠次ハツと頭を下げて忠「恐れ多き事には候へども國家の一大事、御殘念ではございませうが、お家の爲に替難く三郎殿のお事は諦めなければなりません。家「如何にも是非に及ばぬ

事、ア、子は三界の首枷と云ふはこの事にてあるか」と聰明英智の家康公も暫し嘆息遊ばされたるご様子元來酒井左右衛門尉忠次は武勇絶倫の人で、殊に忠義



無双、假にも邪曲なる事なく正直なる豪傑でございませう

信長公が最初忠次を一間のうちに召されて懇なる姫君の玉章を示して彼此御相談の中に忠次は身に引受けて辨駁も致し信康公を飽迄も疵ひまして、御前を繕つたなれば信長とても鬼で

なし必ずご承諾なすたらう來つて有りの儘言上いたしたのでございませう、家康公數度嘆息なすつて家「忠次、其方は織田信長の鑑識に叶つて、ご信用も深き者であるから仰へ立入り、双方ともよきやうに取計らつて宜しからう」

事今の中に片附て了ふ方がお家の爲である、勝頼の様な大將が出来ては大變と濱松へ次は忠「委細長まりました。ごぞいませう恐れながら我君様のご賢慮は」

すから、家康公の右のご内意を知らざるか、又外に思ふ事でもあつたるか、厳しく警衛して日數を送りまする内に肝腎の發頭人、謀叛の張本とも云はれるは、女ながらも築山御前、恐るべき企みをは爲し給ひて愈々ご自身の悪事が露顯をするやうな事に思はれましたから、今は我子信康殿のお身の上どころではございませぬ、御自分が眉を焦く程の憂ひになつて來たのでございませう。

Advertisement for '靈効散' (Rei Kō San) medicine. Text includes: 胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥, 松前家傳, 靈効散(無効返), 價目, 試用分(八日分) 五十錢, 重症用(十五日分) 四十五圓, 平町古鍛冶町縣社ノ下, 阿康藥舖, 電話四四四番.

Advertisement for '長唄' (Chōka) and '花柳流' (Hanayūryū) dance. Text includes: 御稽古をおすめ致します, 花柳流, 舞踊, 平町花柳舞踊流, 町七二, 研究所, 花柳徳三郎, 杵屋十茂代.

Advertisement for '木村科醫院' (Kimura Kei Kaikan) and '木村病院' (Kimura Byōin). Text includes: 木村科醫院, 平町五丁目橋際, 電話九〇三番, 木村病院, 平町新川町十九, 電話一六四番, 婦人科, 長院, 木村寅次郎, 外科, 醫學博士, 内木宗八, 藥局, 藥劑師, 玄番彌一.

Advertisement for 'お醤油は ヤマフル' (Oshoyu wa Yamafuru). Text includes: お醤油は ヤマフル, 醬油味噌, たひら正宗, 鱈節食料品, 鹽屋, 山崎合名會社, 福島縣平町電話營業部二階工場三七, 明治生命製糖代理店, 山崎與三郎.